

「墓の改装の物語」

第1章 私が墓守り？

どうでしょう、お墓のことです。寺から年間の管理費のハガキがきた。お寺の引き継ぎもなく、両親が老人ホームに入ってしまった。私も静岡に住んでいないからよくわからない。父もお寺関係は熱心ではなかったので聞いたことがない。それでも、あの災害で何やら寄進した事はあった。それは1974年、私が17歳の高専生の時、静岡県で七夕豪雨(※)があった。それによって菩提寺の松源寺(図1)の裏山が崩れ、寺が埋まり半壊した。確か、その再建の寄付金をした。

※七夕豪雨

1974年(昭和49年)7月7日(日)に台風8号の影響により静岡県全域で浸水害をもたらした集中豪雨。(Wikipedia)

何回か菩提寺の松源寺で法事を行った記憶はあるが、遙か昔のこと。高専も大学も就職も県外の風来坊には地元も中学校までの記憶しかない。今、52歳の私にとっては遠い昔の出来事。小学校1年の時に静岡市の町中の西草深町の実家から三保半島の小学校、中学校へ引っ越した。静岡市に住む親戚の家系的な繋がりが職業&住所は全く記憶外だ。父が86歳、母が80歳で同時に老人ホーム入ってお寺の面倒まで俺が見るとは予定外であった。しかも、このタイミングで家の前に道路ができるので、実家を更地にして、土地の7割を市役所に収用する。生身の両親の世話&不動産処理で頭はいっぱい、骨の事は後回しにしよう。

第2章 菩提寺に改装を伝える

10月1日に両親がホームに入り、その後の実家の解体、跡地に小さな家を新築し、姉がイタリアに帰国した。猛烈に忙しい冬でも温暖な静岡の汗だくの2ヶ月間を過ぎ、とりあえず火急の用事がなくなったのが12月中旬であった。やっと次の仕事、お寺の改装の気持ちがついてきた。

年も押し迫った2008年12月29日に寺の近所に住んでいる父の妹、叔母さんと一緒に寺に行き、年間管理費の2万円を払う。2万円はどうなんだろう、前年も払っていたのか？住職は記録なし、値段も決めていないらしい、檀家の委員会もないとのことでした。

親父が昨年の管理費を払っていたのか否かもハッキリしないし、こっちも聞きたくもない。勇気を出して「来年、改装したい。」と伝える。改装先は松源寺の本山である京都の妙心寺(臨済宗妙心寺派)と伝える。増田家の先祖代々を妙心寺の涅槃堂へ納骨し、永代供養する許可を松源寺の住職から得た。流石に本山なら住職も反対しないだろうと思ってこの案をだした。後に、この案は撤回してちょっと揉めた。



図1 静岡市地図



図2 静岡市郊外にあるカトリックのルルド

第3章 改装先を探し回る

松源寺は臨済宗と山門に書いてあったことを思い出してネット検索した。本山は京都の妙心寺。行ったことはないが写真で見ると朱塗りの門があり、大きいところだ。涅槃堂への送骨は30万円、永代供養が10万円で40万円(2008.12)電話で見積もりを聞いた。この値段なら京都へ1回行くだけで事は済み、しかもお寺の本山だからと上から目線で言ってしまった。骨壺は宅急便で送れる。

住職に改装の了解を得たので再度、妙心寺に見積もりを出した。仔細を問い合わせると、1柱について40万円(送骨30万円、永代供養10万円)と訂正された。まとめても駄目で、1柱の単価で払う。では、何柱お墓に入っているのか?それが確認できなければ最終金額が出ない。おそらく墓には最低3つは骨壺があるから(3回は子供のころから立ち会った記憶がある)これだけでも120万円?過去帳を見るともっと沢山あるが、見ても旧字体漢字が多く誰だかサッパリわからない。京都は無理かな?他にないかしら。ここで、様々な永代供養や納骨堂をネットで調べて、価格があつて無いような靈感商法の世界を知った。年末休暇に探して、2つ候補を見つけ、下見に行った。1つはカトリック教会の納骨堂(図2)。

1つは静岡市営の納骨堂(図3)。カトリック教会の納骨堂は静岡駅から車で田舎道を40分ぐらいかかるかなり郊外の第2東名が見えるお茶畑の中にあつた。案内してくれたのがこの土地を買って静岡カトリック教会の納骨堂を建てたフランス出身でパリ宣教会(※)に勤務しているルノー神父様。静岡にある教会は駿府城のお堀と本籍がある実家の西草深町のそばにある。両親もここで洗礼をうけた。

※パリ宣教会

パリ外国宣教会はフランスのパリに本部を置くカトリック教会の男子(司祭)の宣教会。1653年にフランソワ・パリュールによって設立された宣教会で、当初より東アジアの宣教を担当している。(Wikipedia)

ルノー神父様の車の中で色々聞いた。この場所を選んだのは故郷フランスの田舎の風景に似ているから購入したが、3年ぐらい前に第2東名の高架橋道路が目の前にできて景色が台無しになってしまった。とても憤慨した姿をみて同情した。この墓は教会関係者が死亡すると国籍に関係なくこの宣教の地で土に帰る場所であつた。墓石をみると日本人、外国



図3 静岡市営納骨堂のパンフレット

人が入り混じっている。なるほど、外国で宣教活動とはそういう事なのか。社会勉強になったがここはNGだろう。なぜなら先祖はクリスチャンではないし、場所が遠すぎる。洗礼をうけた両親の墓地としての候補地ではあるが、今回の改装は見送る。

静岡駅から清水駅方面に1駅の東静岡駅に市営の愛宕（あいこう）霊園（図1の地図）がある。実家から車で15分ぐらいの町中で分譲の墓地もある。今回は墓は作らないので納骨堂狙いである。広い霊園の中央に西洋風の大きな納骨堂がある。料金は1柱10.2万円とお手頃だし（？相場がわからないが妙心寺よりお手頃）、市営なので考えようによっては市民葬だ。静岡市民葬と考えると偉くなった気分である。気に入った。ここがいい。イタリアの姉に話したら、そこなら知っているという。そこに決めた。ところが、ここに入るまでがけっこう大きなハードルに当たってしまい、一時は諦めか？とも思った。その話は正月明けの活動で話します。

色々勘案して、最終的に静岡の先祖を納骨堂に永代供養することに決めた。そのむねをお寺に話して、少々難癖を言われた。最初に京都の本山の妙心寺を出し、すぐに撤回したのが心象を悪くした。少しでも今後の仕事がスムーズに行くようにイタリアの姉からお寺に電話して増田家の事情をわかってもらった。イタリアからわざわざ電話したのが効いて、住職も了解してもらった。お寺にはお寺の事情があるのが正月開けにわかった。

第4章 骨壺は6個あった

毎月第2金曜日に静岡の老人ホームに行き、併設医院のふれあいクリニックに両親を連れていく。薬の処方最大2週間なのでこ

のタイミングになった。もちろんホーム隣接なので徒歩0分で着くが、一旦外に出ないとクリニックに入れない。この建屋の作りをみても介護と医療の分離政策がわかり、利用者である私がイラッとする。

ホームの職員に頼んでもよいが、30分あたり1500円の付添費用が発生する。大抵のサービス業は10分あたり1000円が相場だからしょうがない。だから、節約もかねて月に1回、第2金曜日に静岡に通っていた。通常であればこのペースだが、そこは老人、色々なイベント（入院や、健康診断や、職員からの呼び出しや）で手がかかる。老人ホームに入れてしまえば後はおまかせとっていた。考えが甘かった。様々な書類の説明があり、これを説明責任というらしい、いちいち説明を聞いて、印鑑を押さないと進まない。この時ばかりは、仮定の話であるが、静岡市役所に勤務する妹がいたらよかったのにと思った。

初めてお墓を開けて骨壺の状態を確認する。2009年の1/16金曜日に静岡へKと一緒に鈍行に乗った。鈍行でも2時間30分で静岡に着く。JR静岡駅からタクシーで北東方向、賤機山（しずはたやま）の方角に15分ぐらいの所に松源寺がある。

ここから300mぐらい離れた所に家康が竹千代(6歳)の時に今川義元の人質として学んだ臨濟寺(※)がある。今なら小学校1年で親元を離れて他県で暮らすようなこと。その当時三河と駿府は近いと言っても早馬でも2日はかかったのだろう。人生50年時代の6歳である。

臨濟寺(※)

静岡市葵区大岩町にある臨濟宗妙心寺派の禪寺。駿河の戦国大名・今川家の菩提寺。

近所の石屋に連絡して墓を開けた。父の妹の叔母も立ち会う。住職にお経をあげてもらい、靈魂をここから出て霊界に帰ってもらう。靈魂がなければタダの人骨（化学組成ならリン酸カルシウム）となる。そうなれば、私の出番、大学の物質工学科のテリトリーである。さて、幾つツボが出てくるやら？20年ぐらい前に父の母の増田ヒデが84歳で死去し、葬った時が最後と記憶する。その後に亡くなった父の弟の裕二おじさんは墓が満杯だから、次男だから別のお寺で墓を作ったと聞いた。骨壺は6つあった。蓋をあけて状態を確認する。2つだけ蓋に氏名がマジックで書いてある。中には土まみれの骨もある。きっと明治時代に土葬した骨をそのまま骨壺に入れたのだろう。

新たな発見があった。瀬戸物の骨壺は数十年、いや、70年？の長きに渡る地中の結露で水浸しである。これを見ると骨壺は素焼きに限ると思う。素焼きなら水が貯まらないだろう。今日はここまで、そのまま静かに墓を閉じる。だいぶ状況が見えてきた。Kも初めて墓の下の骨壺の様子をみてショックをうけている。いつも墓参りで信心深いご婦人を演じているが墓の下がこうなっていたとは？知らぬが仏である。

最初この市営の納骨堂を利用する資格を市役所に聞いたときは一瞬諦めかけた。まず、この市営の施設の目的は県外、国外から働きに来た人が静岡で安心して死ねるように作った。だから静岡市民であり、且つ市内に菩提寺が無い人だけが利用できる。それは困った。両親の祖先は全員ずっと静岡市の住人だから前半は問題ない。問題は2つ目、増田家には菩提寺があり、檀家でもある。このままでは寺から市営の納骨堂へ直行ができない。

唯一の方法は、檀家を止めて、一旦、自宅埋葬にしてから納骨堂へ改装する。

この改装プロジェクトは老人ホームにいる父増田久雄の依頼でその息子の増田豊が執行している形をとっているの、随所に父の意思を市役所に伝える。予め家系図を作ってこちらの意気込みを見せるのも良い。間違っても「最近、ボケたので」とか「忘れっぽくなったので」とか、認知症を疑うような言動は避ける。来庁できない理由は足が不自由の車椅子生活、最近体調がよくないことをアピールする。お寺が終わった後、父の兄弟の中で一番若く、元気で、信心深い叔母さんとお蕎麦を食べ、和んだ。その足で静岡市役所の15階にある市民生活課で会話を覚えている。

市役所「で、幾つ骨壺がありましたか？」

私「6つです」

市役所「名前が特定できますか？」

私「2つは蓋の裏側に名前がありますが、その他は不明です」

市役所「では、この家系図の若い順の1、2、3、4、5、6人としましょう。」

「それから死亡日はわかりますか？火葬埋葬日は+2日して書類を作ってください。」

市役所「念を押しますが、親戚縁者が後から反対だから骨を返却してくれと言ってもできません。いいですね。」

私「はい、大丈夫です。親父に決定権があります。」

こうして、親父の[住民票],[印鑑証明書]と[納骨堂利用許可申請書],[永年使用の誓約書]と1体101940円×6柱=611640円市役所に支払って、やっと市営の納骨堂への[永年埋葬許可証]を得た。あー長かった。さらに仕事は続く。

第5章 自宅埋葬にする

自宅埋葬を考える。実際、田舎の広い土地の人は庭や畑の一角に先祖代々の墓を作っている。墓を建てなくても骨壺を自宅に保管するでもよい。でも私は初めての経験。その書類（遺骨引き渡し証明書）を市役所で用意し、寺の美術工芸品的な印鑑をもらう。骨は乗用車の車庫証明と同じである。車の所有者が自在に車の保管場所を移動できない。どこに保管するかは車庫証明書が必要である。同様に骨の所有者は増田家であるが自在に動かさない。決められた場所に保管することが決まっている。そうしないとそこら中に骨が散乱して警察も困る。

石屋とお寺に連絡して2009年1/30金曜日に行き墓を開けて無事6つの骨壺を回収し、住職に書類にお寺の印鑑を押してもらった。骨壺は事前に用意した市販の買い物袋6枚にそれぞれ入れて、石屋の車に乗せて自宅に保管することになった。当日は雨であった。土にまみれている骨は寺の井戸水を汲んで、100円ショップで買ったザルで土と骨を分けて、骨だけを骨壺に入れた。けっこう手間かかるが、こういう物理的な作業は好きである。骨を洗う話を姉にしたら、姉が奄美大島の教会に居た頃、その土地では先祖の骨を海で洗うことがあったそうだ。先祖もさぞかしサッパリしたのだろう。これは良いこと。祟りはない。

私が嫌いなのは住職や石屋にいくらのお金を渡すか？ 考えてしまうとき。石屋の手間賃は1万円とした。困ったのが住職へのお礼である。今日、印鑑をもらえばもう檀家は抜けて会うこともない。改装のお寺へのお礼の金額がわからない。人によっては50万円とも言う。こうわけのわからない事はとても苦手で

ある。そこでイタリアにいるカトリックシスターの姉に相談した。

私「人によって色々言うが、僕は2万円です十分と思う。前回、管理費2万円と墓を開ける時のお経で1万円を寄進した。」

姉「そうね、2万円でもいいよ。1万円をお札で住職に、そして、5千円で住職の奥さんが喜ぶモノを買って行きなさい。」

なるほど、今どき、金に困っていない大人に1万円とか2万円を寄付しても、それは事務処理になってしまう。それより、5千円で見栄えする佃煮セットを奥さんに上げた方がよっぽど心証が良い。しかも、私は5千円節約できる。一挙両得だ。

私「長きに渡って増田家のためにありがとうございました。」

住職「こちらこそ、ここにある墓の何割かは、もう管理者不在の無縁仏になってしまった。増田さんのように最後キッチリと処理してくれるのは寺としてもありがたい。」

そんな会話をして、先祖代々の増田家と松源寺の檀家関係は終わりになった。そして私やホームにいる両親もイタリアの姉も鎌倉の妻も菩提寺がない気楽な身分となった。嬉しい自由だ。最後は墓石を撤去して、コンクリで固めるが残っている。これは石屋さんをお願いして見積もりを後日教えてもらう手はずにした。帰りの新幹線の中で、これでやっとモヤモヤが終わった。檀家を抜けた。両親もカトリックだから、増田家に関係する法事はない。やっぱり嬉しい！

第6章 骨を乾かす

納骨堂は骨を絹の布に入れて収納するから骨はキレイな乾燥した状態でもってくるように言われた。干さなくては。この冬の日照時間が短い中で晴天を待つ。その日は意外にも早くやってきた。会社がある火曜日（2009年2/6）だが、朝からピーカン天気、駿河区も晴れ、終日晴れの予報。ヨシ、今日、静岡で天日干だ、急遽有給休暇取得。短時間で骨を乾燥するにはどうするか？物理化学的に最適解を考える。広くもない庭に新聞紙を6つ敷き、平にし、その上に黒のビニールゴミ袋をのせ、骨壺から骨を出して並べる。水が垂れ、手が濡れる。流石にゾクツとしたが、今日は仕事モードのスイッチが入っているからきみの悪さも一瞬で消えた。骨にも色がある。ちょっとピンクがかかった骨、黄色、茶色、青色とそれぞれ時代、部位によって違う。並べてみるとよく違いがわかる。今日は縁側でラジオでもかけながら3時まで干そう。幸い太陽はピーカンで、日陰もできないし風も穏やか。3時間ぐらいしたら近所の叔母さんが来て興味深そうに覗いた。

おばさん「豊ちゃん、久しぶり、何しているの？」

私「骨を干しているの」

おばさん「何の骨？」

私「人間の骨、先祖の骨、納骨堂にもっていくので」

おばさん「ふーん、頑張ってるね。」

そろりと立ち去る。

途中、昼飯のパンを買いに15分ぐらい留守にしたが、盗まれることもなかった。盗む人もいないか。冬の日中は短い。15時になるともう日に力がない。今日は乾燥した晴天で完璧に乾燥した。下に敷いた黒のビニールが温まったのがよかったと思う。この作戦は成功



図4 自宅埋葬と骨の天日干し

したと自画自賛。骨を骨壺に戻し、散らばった骨を庭にまいて帰宅した(図4)。

第7章 納骨の日

私が主催する最初で最後の法事が市営納骨堂に増田家先祖代々の骨を収める儀式となった。今日(2009年2/12)はKも参加する。親戚には500円以内で花をもってくるようお願いした。6つの骨壺を運搬用のマイバッグに入れて納骨堂で並べて黙祷し、書類を事務所で渡し、骨を絹の袋に入れた。骨壺は持ち帰り。昼時だったので近くのファミレスガストに入りお斎を提供した。一人1500円の予算で好きなものを注文してもらう。ドリンクバーはあるが、ここは昼間のファミレス、アルコールは無し。食事後解散し、行事は2時間ほど終了した。伝統的な法事とはまるで違う現代的な様式となった。横に座っていた父の妹いわく、「本当は、お墓の改装は反対だよ」と言いました。この家も娘さんが2人であり、もう嫁いでいるのでお墓の維持も難しいです。静岡の市街なのでそれほど八つ墓村的な本家、分家の概念はありません。増田家は元は百姓ですから家柄を心配するような事もない。私的にはホッとした。「神奈川では樹木葬や散骨やファミレスの法事が当たりまえ

です。」と、やや嘘っぽい希望を言う。私と同世代のいとはわかっている。墓守や法事をやるのは現代では難しい。

さて、ファミレスで食事をして、終われば新幹線で帰宅とはならない。何故なら、6つの骨壺を処理しなくてはならない。市の不燃ごみに出したいところだが、ここに住んでいないのでできない。結局、金槌で粉々に割って、庭の敷石にした。6個の瀬戸物を粉々に粉碎するのも骨が折れる。幸い、高価な骨壺でなくてよかった。ちょうど、庭の中に工事中の下水管の蓋の周りが空いているので、そこに砂利状の骨壺の破片を詰め込んだ。後日、静岡に来た時、ここが水道工事でコンクリートで固めてあるのを見て驚いた。先祖代々の骨壺をここに封印した。

第8章 後始末、エピローグ

2月の中旬に石屋から墓の撤去と更地とコンクリート処理の見積もりが来た。総額27万円。何でも密集している墓は重機が入らないからすべて人力で撤去なのでこの値段になるという。私には皆目検討がつかないから、一発でOK。墓石は砕いてどこかの道路の敷石となるという。本当か？どうかはわからない。これ以上の追跡はできない。

3月のある桜が咲くころ、教会の人が車を出してくれて老人ホームにいる両親を連れて最後のお祈りをして、けじめをつけた。桜の木の下で司祭が何かの儀式をしてくれた。私はキリスト教的な意味はわからないが、両親が立ち会ったことで満足した。このようにして、2008年10月に両親がホームに入居したを皮切りに勢いで”親片”をした。姉が帰国している3ヶ月間（9月～12月）を有意義に使って兄弟で乗り切った。

第9章 私の実家じまい日記

2008年10月

両親が老人ホームに入居
築20年の木造2階の家のゴミ掃除、解体、更地にする
市役所に土地7割を収用。

2008年11月

姉が友達の家の間借りする。
残り3割の土地に帰国時に住む小さいワンルームの家を建てる。
父が胃潰瘍で緊急入院

2008年12月

新築の家が完成し、姉が引っ越す。
新築&引越し祝いをする
姉が帰国する。

2008年1月

骨を寺から自宅埋葬へ移動。

2008年2月

6柱を静岡市の納骨堂へ収める。

2009年3月

両親を納骨堂まで連れてキリスト教の儀式をする。
これにて、改装の義はすべて終了した。

第10章 両親が納骨堂を予約する

一段落した後、2009年夏に両親もこの市営納骨堂に入れるように、私が委任状をもって市役所に生前契約をした。これで両親までの墓は確保した。やったね。ちなみに両親が生前、地元の冠婚葬祭業界のハートリンクに葬儀の生前契約をしていたが、それも途中解約した。毎月3000円、定額で払っている先をやっと見つけて解約し、返金してもらった。

保険や葬儀は先が長いので、入ったときは本人は元気だから覚えているが、実際に役立つ

ときは本人は死んでいる。ある程度の年になったら、第3者や家族に、事務的に死後の処置を託するようになりたい。市役所の住民サービスとして死ぬる終活「わたしの終活登録」が横須賀市で開始した。今後は独居老人が多くなるので、老人も子供と同じように社会全体で支えることが必要である。身寄りが無く亡くなると後処理がやっかい。それも全部市役所が引き受けることになる。空き家対策でもある。

第11章 用意した書類と会計報告

父の[住民票],[印鑑証明書]

以下は1柱あたり1枚ずつ作成

[遺骨引き渡し証明書]、[納骨堂利用許可申請書]、[永年使用の誓約書]、[永年埋葬許可証]

費用は1柱101940円×6体=61万円

先祖代々の6柱を改葬する会計は98万円

石材店	墓開ける2回の手間賃	2万円
石材店	更地工事	27万円
菩提寺	お経代とお礼.2回	2.5万円
市役所	6体の市営永代供養	61万円
ファミレス	5人分の法事食事	5500円
骨壺移動用エコバック	6個	3000円
JR	5回分の往復運賃+食事	4万円

総合計 ざっと 98万円

以上、終わり。今月も読んで頂いてありがとうございます。

<今月の時事ネタ>

史上最大の台風19号が関東を抜けたのが10/12だった。各地で川が氾濫し、水に浸かった家屋や畑を見る。町全体が水没した所もある。人生の中で1度でも大災害にあったら色々な意味でショックである。人生の中のほんの一瞬の時間で奈落の底に落ちる。幸い、私自身はそのような災害、事故、病気は無いが、将来は何時も不透明だ。

父の話によると祖父の時代に2回火災で家が消失したと言う。1940年の静岡の大火で街全体が焼けた。その翌年、新築の家を建てたが1945年6/19の静岡大空襲で焼けた。新築の家も4年あまりで灰になった。日本全体、そんな事もよくあった時代だった。

写真は大災害がおきても、何時も平然と美しい姿の富士山です。台風一過(10/13)の秋空の下に鎮座している。この山もかつては噴火を繰り返した。どこにいても自然は絶えず変化し、それに適応する人間だけが生き残った。



藤沢引地川公園から秋空の富士、2019.10/13
大災害の台風19号が過ぎれば、いつもの富士山がみえる

今年も残りわずか、来月12月に師匠の1周年忌です。早いものです。